

全教神協広報

第一〇七号

全国教育関係神職協議会

〒一五〇〇五三

東京都渋谷区代々木一丁目

本社本庁内

電話 〇三三三七九八〇一一

Fax 〇三三三七九八二九九

題字 諏訪秀一氏

使命はコロナ禍を超えて

全国教育関係神職協議会 会長 佐藤 英尊



コロナ禍は現代社会に対して様々な方面に深刻な影響を与えています。医療崩壊、国際連携の遮断、生産活動の縮小または停止、経済活動の沈滞など、人類の営みに「待った」をかけるという史上まれにみる異常事態です。被った被害の大きさは計り知れないものであろうと思えます。人の動きが止まり、学校の機能停止、企業倒産、失業、医療現場の

混乱等々、その惨禍は想像するに余りあるものとなっております。特に学校休業がもたらした教育課程の混乱が、次代を担う子供たちの成長に多大な影響を与えていることは、憂慮に堪えないところです。また、様々な社会活動が制約を受ける中で、夏に彩を添えてきた全国の著名な夏祭りは、ことごとく取りやめとなりました。雄大な社会的行事としての祭りが中止されたことで、経済的損失は莫大な額に上るといわれております。神社が関係する祭りの象徴としての神輿にしろ、山車にしろ、蔵に取まつたまま、かかわる人々の出番を封じ込めました。そして八百万の神々をお祀りする多くの神社では、今年の祭りを三密回避の下で規模を

縮小して斎行されたと推測します。ことに、疫病退散を祈願して行われてきた由緒ある祭りが、皮肉にも、疫病感染防止のために中止を余儀なくされるという矛盾を生みました。こうした矛盾が、今後の祭りの在り方に課題を残したといえましょう。当会においても、全国の会員が一堂に会して行ってきた夏の全国大会を中止せざるを得ませんでした。やむを得ない結果ではありましたが、本会の中心的な活動の中止、合わせて創立六十周年記念大会の延期という事態は、痛恨の極みです。開催準備を進めてこられた東海地区の皆様も、御同様のことと推察します。一方、役員会等においても従来の会議形態は行えず、情報通信機能の活用による協議となりました。また、書面会議、書面決議といった間接的な会議形式を採らざるを得ませんでした。しかしこうしたコロナ禍の中、和歌山県教育関係神職協議会、鹿児島県教育関係神職協議会が、めでたく発足の運びとなりました。心よりの祝意を表し、併せて今後のご活躍に期待を寄せるものであります。申すまでもなく、数は力なりの原則に従い、今後も教神協未組織県の解消

に努めていかなければなりません。加えて、教育に携わる現職の皆さん、全教神協加入促進を強く進めなくてはならないと考えます。教育関係神職として横の連携を図りつつ、教育実践の場に籍を置く会員の増加は、それだけで大きな力となります。神社を知ること、日本の由つて立つところを学ぶことです。教育基本法の改正により、学校教育が神社に開かれつつあります。この点に着目して、神社がかかわった学校教育への対応を、実践記録としてまとめなければならぬと考えております。そしてそれを活用して、更なる神社における教育活動を展開していくことが期待されます。戦後七十五年の歳月は、神社が教育の現場から遠ざけられてきましたが、子どもたちにとって神社は身近な存在でした。お祭りは、子供たちにとって楽しみ之時であり、日々の神社境内は格好の遊び場でありました。そしてようやく学校教育が、神社に学習の場を求めるに至りました。神社はその対応を誤ってはならず、正しい神祇認識を育てていくようにしなければなりません。それが我々教育関係神職の使命です。